家事代行を使うメリット 久保怜子氏

弁理士

#私見卓見 #生活 #ワークスタイル

2022/4/12 2:00 [有料会員限定]

家事代行サービスを利用することで掃除や料理などの負担を軽減できる

女性の社会進出と並んで議論されるべき「男性の家庭進出」が、新型コロナウイルス流行による働き方の変化を経ても、まだ十分ではないという報道を目にする。そこで家事代行の利用が普及するよう、メリットについて書きたい。

私は共働きで育児をしており、昨年12月に次女を出産して育休中である。長女の出産後、思い切って料理を地元のシルバー人材の方に作ってもらうことにした。約5年間、週1度自宅に来てもらい、2～3時間かけて4～5日分のおかずをつくってもらっている。また不定期で家事代行のマッチングサービスも利用し、今までに料理、掃除、整理収納などを依頼した経験がある。

家事代行にはお金がかかるが、料理をまとめて作ってもらう場合は計画的に献立を決めて買い物をするので、無駄な食費がかからなくなる。加工品の購入やデリバリー利用、外食の頻度も減るので、全体として、そこまでお金はかからずに健康的な食事がとれる。

また、長期的には、家事・育児のために仕事をセーブするより、家事代行にお金を使ってでも自身のキャリアのためになる時間の使い方をするほうが、金銭的なメリットが大きくなる可能性もある。

家に人を入れたくない、留守中に作業してもらうのは心配といったハードルもある。私も部屋が散らかっているなど恥ずかしい気持ちもあった。しかし相手もこちらが忙しいのは承知している。こちらも家族のような気分になり、次第に慣れてくる。貴重品の管理などには気を付けて信頼できそうな人に来てもらうようにしている。

私は良い縁に恵まれ、その人たちとの交流も楽しむことができている。昨年までの人は自家製のらっきょう漬けを持って来てくださるなど、親切なご近所さんのようだった。いま来てもらっている人とも料理のレシピなどの情報交換をしており、家族のような親しみを感じている。

日本の食文化は誇れるものだが「お母さんの手料理」が良いとされる考え方が女性の負担増につながっている。「お父さんの味」や「きょうはおいしい〇〇さんの味」の日も加われば、より食卓が豊かになって楽しい家族の時間につながるのではないだろうか。

当欄は投稿や寄稿を通じて読者の参考になる意見を紹介します。原則1000字程度で、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記のうえ、ご応募ください。匿名での掲載希望はお受けできません。ご意見の趣旨を変えずに文章を編集することがあります。採用させていただく場合、日本経済新聞朝刊と電子版で紹介します。

▼郵送の場合

〒100-8066東京都千代田区大手町1-3-7 日本経済新聞社東京本社「私見卓見」係

▼ネットの場合（添付ファイルはご遠慮ください）

メールはこちら→kaisetsu@nex.nikkei.com

投稿フォームはこちら↓↓↓

esf.nikkei.co.jp/shikentakken/